

動物の避難対策

同じ地球に生きる命あるものとして



練馬区獣医師会

動物の命を守る
だけではない



動物に起因する
二次災害を防ぐ

動物防災

被災者は平等・区民の健康と命を守る

★動物がいることで避難拠点に入れない⇒避けなければならない



今までの災害報道より

- 《**阪神淡路大震災**》
ペットを倒壊家屋から救出するために危険なところに助けに入る
- 《**三宅島噴火災害**》
自分の飼っているペットが自分とともに避難できないのであれば避難しないと、避難を拒否
- 《**中越地震**》
老人が自宅に残った猫を救出するために自宅に戻ったところ、家屋が崩壊し家屋内に閉じ込められ、救援隊に救助される



神戸災害と戦災HPより抜粋



エコノミークラス症候群

- 小千谷市の避難所に犬と共に避難した女性が、避難所ではペットと共に入所することは出来ないと言う通達に犬と生活を別にすることが出来ず、車内で避難生活をしていたところ、エコノミークラス症候群を発症、**死亡**。
- この問題を捉え新潟県は小千谷市に対し**ペットと共に避難できる仮設テント**設置を要請、小千谷市は自衛隊にテントの設置を要請した。

<毎日新聞インターネット版より>



練馬区獣医師会

エコノミークラス症候群対策 自衛隊大型テント設営



自衛隊が避難所に設置したテントをのぞき込む子どもたち。

「車の中より足が伸ばせていい」

小千谷市のさくら保育園

毎日新聞インターネット版より



練馬区獣医師会

災害時に動物がいることで 起こりうる二次災害

- 動物を連れて行くのをためらい避難が遅れる
- 動物を助けようと危険地帯に入る
- ペットを介して衛生状態が悪化する
- ペットがいることで非難拠点で差別される
- ペットと離れた生活で精神的に不安になる



飼育動物対策

- 災害により傷病を追った動物の救護
- 出来るだけスムーズな同行避難
- 日頃の心構え、飼い主責任の原則
- 動物救護センターの設置について



HPあるボランティアが見た震災より



「災害時の区と獣医師会との 協力に関する協定」

- 災害時の不明小動物救護
(原則は飼い主だが獣医師会会員が応急手当)
- 被災動物の保護および管理
(練馬区は避難拠点への同行避難を呼びかける)
- 被災動物に関する情報提供
(固体識別の周知や訓練への参加を呼びかける)
- 「動物救護センター」設置など
(災害で飼育不能、飼う事が不可能な動物の保護)



動物と一緒に避難出来ない

- 1) 避難拠点
- 2) 近所の公園
- 3) 親せきの家
- 4) その他



一緒に連れて行けないと判断し
ペットを放す

野良犬化

周囲が危険に

各避難拠点にはペットの受け入れ体制
についての検討をお願いします



同行避難

ためらうことなく動物
と一緒に避難をする



飼育動物の保護管理
自分たちの命を守る

飼い主責任が生じる



防災意識に関する調査

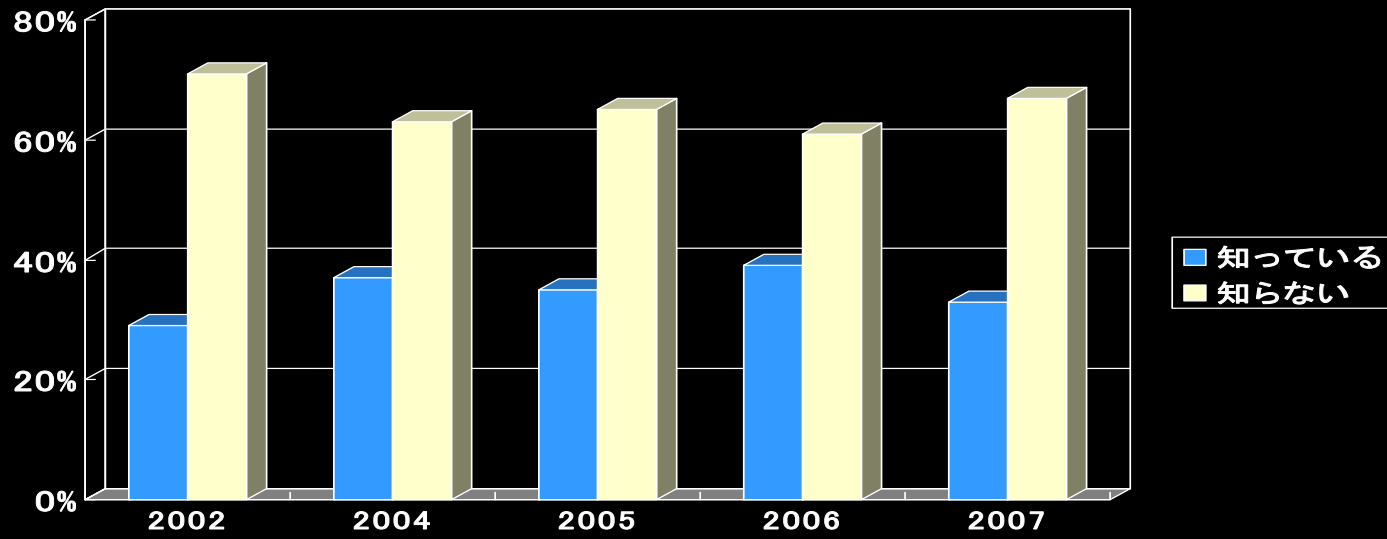
- 期間 :平成14年9月1日～平成19年10月31日
- 調査場所 :練馬区・東京都総合防災訓練
ねりま祭り、会員動物診療施設
- 対象 :動物飼育者、非飼育者
- 調査実施 :動物飼育者1176名・非飼育者1072名
総数 合計2248名



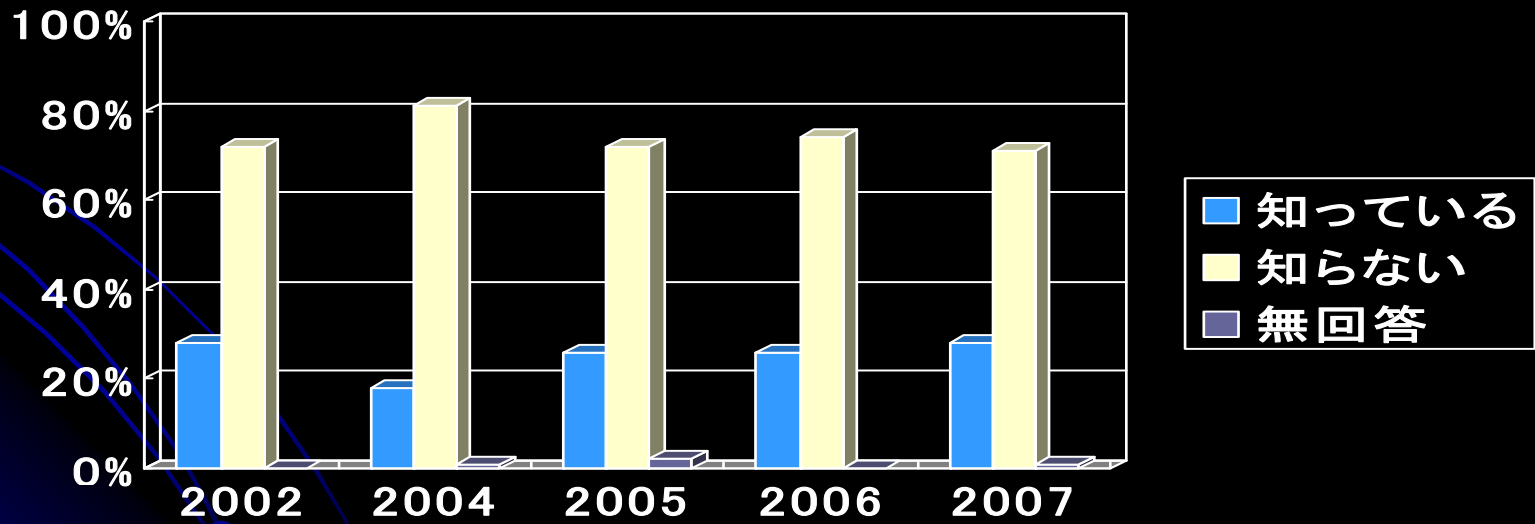
緊急時は動物を同伴しても
よい避難拠点のあることを
知っていますか？



飼育者

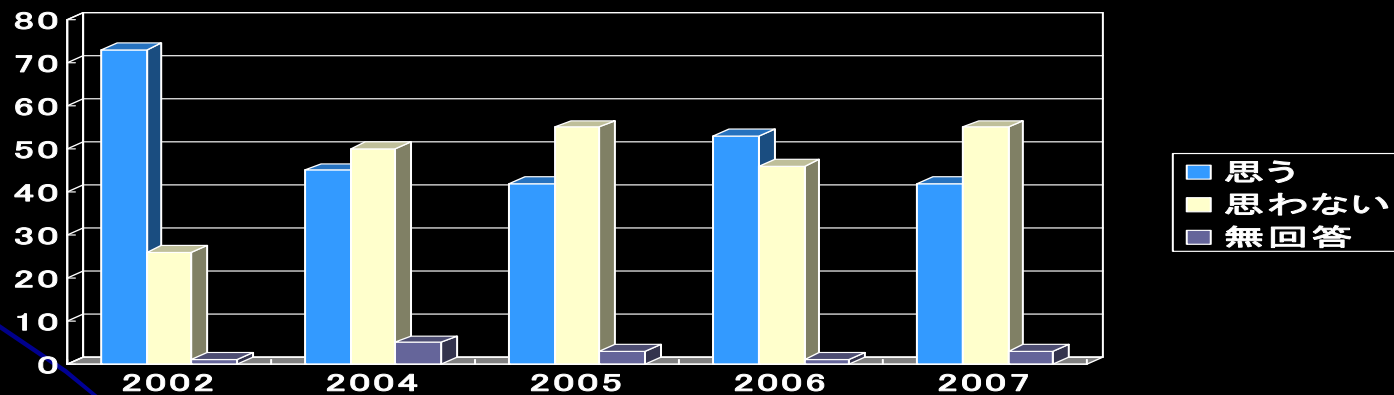


非飼育者



あなたの行く避難拠点も 動物同伴可能だと 思いますか？

飼育者



飼育者のほぼ50%は可能だと思っています



同行避難の意識を
動物の飼い主にもっと啓発！

避難拠点の受入れ体制
を整えることが重要！



HPあるボランティアが見た震災より



避難拠点を運営される方々へ

飼い主は、規制の有無にかかわらず避難拠点到動物とともに避難してきます。

避難拠点是同行避難を拒否する権利もあるでしょう・・・しかし、権利とともに義務が生じ、拒否するのであれば、動物とともに避難してきた住民の保護を行う義務も生じます。



不幸な出来事

中越地震で起きたエコノミー症候群で亡くなられた方は、被災者であるとともに
人災被害者です。

このような不幸な出来事はなくさなくてはなりません。

拠点運営にはその義務があるのではないのでしょうか？

同行避難訓練（避難拠点）

- 平成19年度までの防災避難訓練で区内103箇所の避難拠点で動物同行避難訓練を実施したところは2箇所だけです。
- 各避難拠点では、「動物を飼育している飼い主が動物とともに避難してくる」ことを想定した避難計画を早急に検討



同行避難訓練風景



大泉北中学校訓練風景

平成14年度



同行避難訓練風景



大泉南小学校

平成16年度



同行避難訓練計画

- 各拠点で地域の状況に応じた受け入れ体制を検討
周辺拠点と協議して、避難拠点によって動物同伴可、不可を設定し、あらかじめ周辺住民に伝える。
- ペットの受け入れ場所（原則は飼い主と同じ場所）
拠点内では混在か？分離か？など
- ペットの受け入れ受付手順
一般避難者とは別にする、
ロープで仕切るなど
- 拠点でのルール作り、各地域に合った計画など



災害救助犬 デモンストレーション



煙体験ハウス



地域コミュニティの活性化



避難所体験訓練
野外炊さんと宿泊

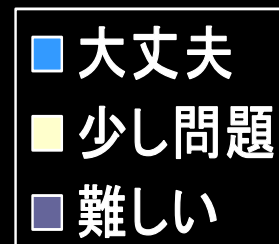
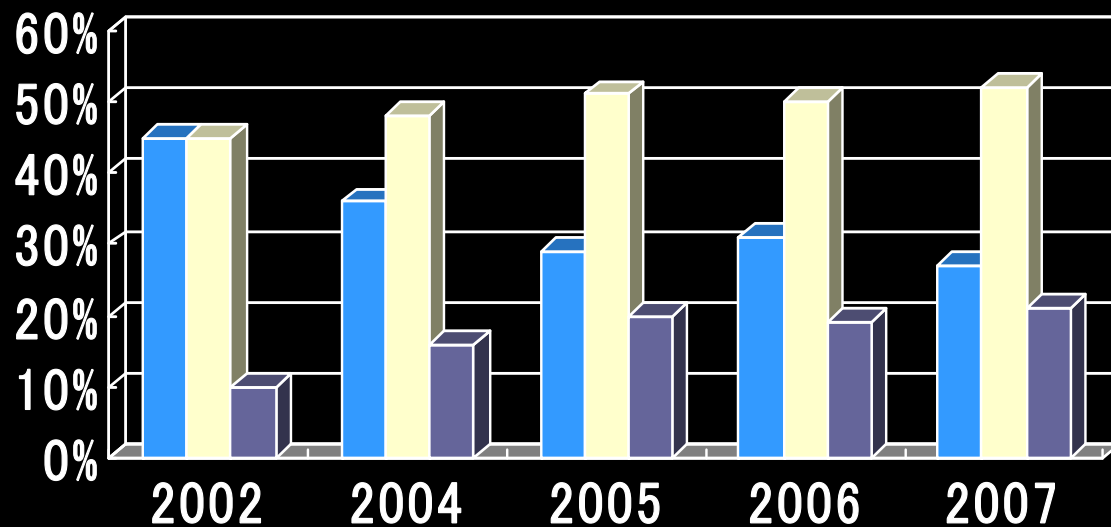
ここに動物がいたら？



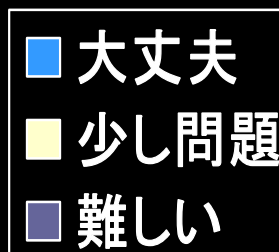
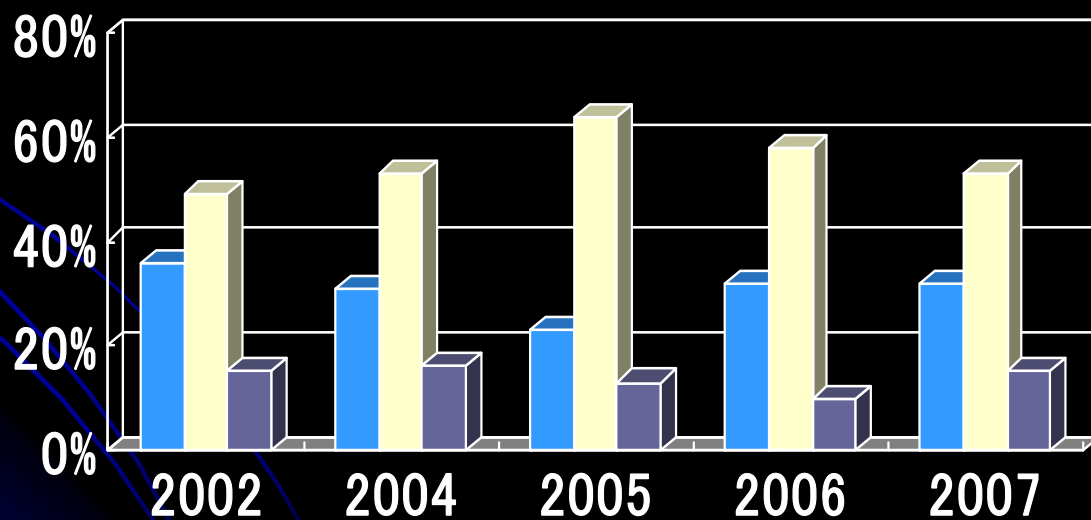
避難拠点で動物が周囲 とうまくやっていけると思 いますか？



飼育者



非飼育者



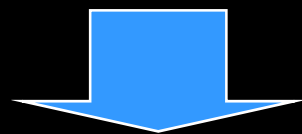
避難拠点で想定されること

- 動物と人間の問題
- 公衆衛生上の問題
- スペースの問題
- 動物同士の問題



動物を飼育している方へ

動物を飼育することによって
飼い主責任が生ず



認識して日頃から災害に備える
スムーズな同行避難



飼い主責任の原則

- 動物を放置したり解き放ったりしない、第三者に危害を加える可能性をなくす
- 動物同士の喧嘩など、騒いだりさせない、絶対に人に咬みついたりさせない、ムダ吠えさせない。 ➡ **制止出来るようにしつける**
- リードに慣れさせる、ケージに慣れさせる
- 食餌・水は各自で準備
- 糞尿の後始末はきちんとする

すべて基本的なマナーです



動物が被災しない飼育場所

- 室内飼育

家具の転倒・ガラスの飛散防止
避難経路の確保（玄関等の整理）
室内の落下物から守る



HPあるボランティアが見た震災より

- 屋外飼育

落下物や塀の倒壊を考えた場所で飼育

スムーズな同行避難へ



練馬区獣医師会 30

スムーズに同行避難する

- 犬も猫も

名前を呼んだら返事をするように
普段からのしつけ→飼い主責任

- 猫を確保するために

猫の隠れ場所を日頃からチェック
キャリーケースに入ることに慣らす



ペットのための備蓄



家庭でできるペット用防災備蓄



病気の予防

犬は狂犬病予防注射を必ず受ける
狂犬病予防法により接種義務がある

- 予防できる伝染病は予防
- 外部寄生虫を駆除
- 検便、消化管内寄生虫を駆除



集団生活ができるように

- 繋いでおくため、リードに慣らす
- ケージ飼いに慣らす
- 糞尿の後始末をしっかりと



行方不明にならないように

- 犬は鑑札の装着義務
- マイクロチップの注入
- 名札の装着
- その他



動物は話せません。
災害発生後離れ離れになった動物の識別には、
動物についている鑑札などとの照合が必要。



災害発生からしばらく経過して

- 怪我をした動物（避難拠点での対応が不可）
練馬区内の稼動可能な動物病院で対応
- 飼い主が不明な動物
避難拠点での収容不可能・野良犬化？



動物救護センターで収容

- 死亡した動物
動物霊園と協議継続中



動物を収容する救護センター は必要だと思いますか？

飼育者 平均95,6%

非飼育者 平均93,4%

の方々が必要だと思っています。



「動物救護センター」の設置

- 『都立光が丘公園 弓道場』
- 『都立石神井公園 A地区野球場』
- 『都立城北公園 小野球場』



練馬区獣医師会

三宅島災害動物救護センター



2003.3.29 開設 外貌と収容施設

診療・給餌・ボランティア



エキゾチックペットを 飼育されている方

エキゾチックペットの中でも、**外来種は、逃げてしまった場合、そこで繁殖し、日本古来の生態系を破壊してしまう結果となる。逃げないように十分ご注意ください。**



特定動物を 飼育されている方

- 練馬区内でも特定動物が飼育
- 特定動物飼育の許認可は東京都
- 災害時の対応は、東京都に相談



活動の内容

- 行政との連携
- 動物防災の啓発
- 区民の持つ防災意識調査



神戸災害と戦災HPより抜粋



いざという時に備えて

- 生き埋めにならない
- けがをしない
- 火事を出さない



身の安全を確保・元気で避難しよう

ご近所と普段から仲良くしましょう！
地域コミュニティの復活・再生！！



神戸災害と戦災HPより抜粋



練馬区獣医師会

地域交流～野点の会～



伝統・文化の継承
世代を超えた交流



練馬区獣医師会⁴⁶



とつぜんの災害

被災するのは、
人間だけでは
ありません。



災害時、あなたの大事な犬や猫が迷子にならないように

日頃から鑑札や名札、マイクロチップなど
飼い主を探す手がかりになるものを付けておく事が大切です。

